

保護者様

川崎市立宮崎小学校
校長 松澤 ゆかり

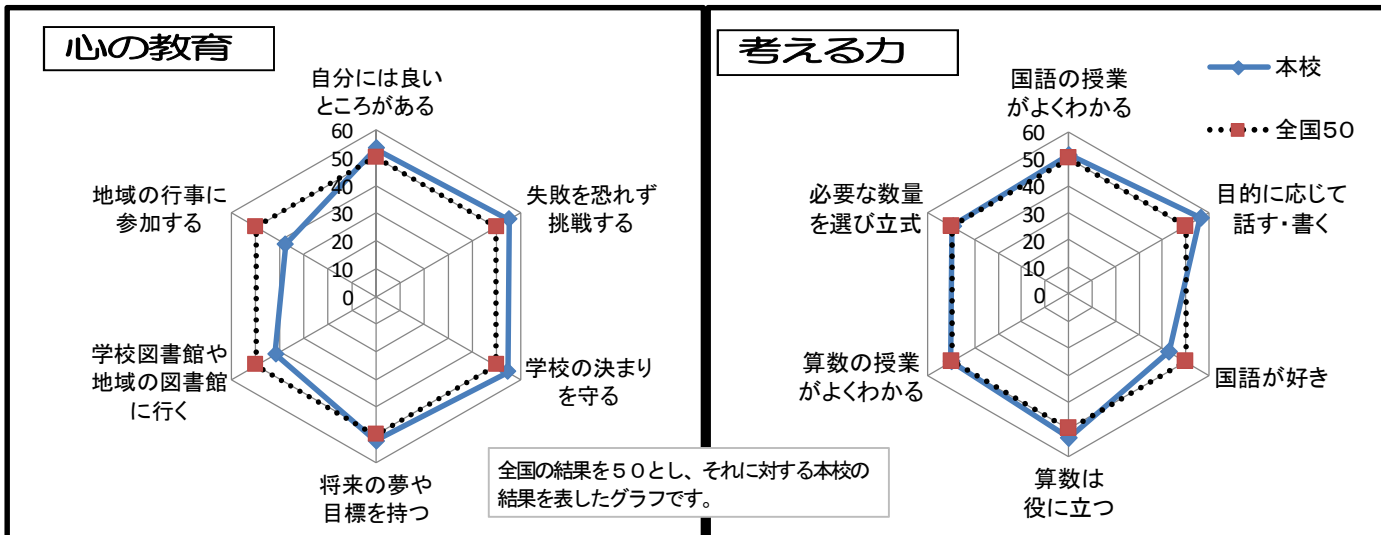
令和元年度 全国学力・学習状況調査の結果と概要と宮崎小学校における今後の取組について

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

本校におきましては、学校教育目標「思いやりのある子ども 自主的な子ども 健康な子ども」の実現に向けて、日々の教育活動に取り組んでいます。

さて、4月18日(木)に6年生を対象に実施されました全国学力・学習状況調査の各学校の調査結果が配付されました。調査結果をもとに、「宮崎プラン」でお伝えしております「学び合う・支え合う・安心安全な学校づくり」の3つの柱をより充実させ、「心の教育」と「考える力」をのばすために、どのような視点で授業づくり、環境づくり等に取り組んでいくことが大切なのかを分析し報告いたします。本調査によって測定できるのは学力の特定の一部であり、学校の教育活動の側面であることが調査の実施要領に示されております。したがって、本資料におきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標としてお考えいただきたいと存じます。今後も保護者・地域の方々と共に課題を共有し、教育活動の推進に努めてまいりたいと考えております。

1 調査結果概要



2 調査結果をもとにした今後の取組

成果
課題
分析
今後の取組

<支え合う学校づくり>
地域に開かれた学校づくり
安全・安心な学校づくり

※示している数値……本校児童が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した数値・正答率 ()は全国の数値
※昨年度は「当てはまる」と回答した数値・正答率

(1) 心の教育にかかわる調査結果

【昨年度の課題】 基本的な生活習慣を整え、地域の行事への参加を呼びかけ、愛着をもてるようにしていきます。

- ① 自分には良いところがある 84.3% (81.2%)
- ② 失敗を恐れずに挑戦している 84.3% (79%)
- ③ 学校の決まりを守っている 97% (92.3%)
- ④ 将来の夢や目標を持っている 86.1% (83.8%)

- ①本を読んだり借りたりするために学校図書室や地域の図書館に行く 9.1% (17.2%)
- ②地域の行事に参加している 54.6% (68.0%)

- ・①、②は、全国平均を上回る結果となりました。学年での実行委員や学級での当番活動、係活動において、ふり返り活動の手立てを工夫し事後の活動を大事に行ってきました。児童一人一人が活動の意義を感じ、クラスや学年で認められているという気もちがもてるようになったと考えています。
- ・③、④は「キャリア在り方生き方教育」を推進する中で、継続的に責任を持って取り組む活動を行ったことで、自己の役割と目標を意識できるようになったと考えます。また、地域や家庭と連携しながら自己を理解し、具体的な自分の将来像を考え、実現するための目標をもつ教育活動を展開したことが、将来の夢や目標を育むことにつながったと考えています。
- ①は、学校司書や図書ボランティアと協力をし、図書館利用を計画的に行い、調べ学習や読書活動推進する授業改善を行っていきます。
- ②は、54.6%であり、昨年同様全国平均を下回りました。地域を愛する心を育て、学校を取り巻く社会に目を向け、地域の一員である意識を高めていけるよう努めてまいります。

<学び合う学校づくり>

(1) 国語について

昨年度の課題 自分の思いを伝えるだけでなく、目的や意図に応じた文章表現の力が付くよう指導・支援していきます。

① 国語の授業の内容がよくわかりますか。
86.1% (84.9%)

② 国語の授業では、目的に応じて自分の考えを話したり書いたりしていますか。
84.2% (78.1%)

❶ 国語の勉強は好きですか。
57% (64.2%)

①では、「授業がわかる」と回答した児童が全国平均を上回りました。「わかる」国語の授業を目指してきた成果が少しずつ表れてきていることが伺えます。一方で、「分からない」「あまり分からない」と回答している児童が13.9%いることは、今後の課題です。

②は全国平均を上回りました。文章を書くことを通して話の組み立て方を知り、意識しながら発言や発表をさせてきたことが成果につながったと捉えています。また常時活動として、新聞記事を読んで自分の意見を文章にしたり、自学ノートで日々の生活で抱いた疑問や学習に対する疑問を書いたりする活動を続けてきたことも、この結果に大きく影響したと捉えています。

❶では、全国よりも下回る数値結果がでました。上記①②の通り、授業内容をよく理解したり、自分の考えを伝えたりする力もついてきています。そのこともしながら、今後は全国平均を上回ることを目指します。

(2) 算数について

【昨年度の課題】 算数の学習を日常生活の問題解決に活用できていない、と感じる児童が多かった。他教科や日常生活において、数学的な考え方を生かせる場面設定をしていく。

① 算数の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか。
95.7% (92.5%)

② 算数の授業の内容はよくわかりますか。
49.7% (49.3%)

❶ 示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式する問題
68.3% (68.6%)

①では、「よく役に立つ」「役に立つ」と回答した児童と合わせて全国平均を上回りました。また、「普段の生活の中で活用できないか考えますか」という問いについても全国平均を上回る結果になりました。また、昨年度に比べても、7.3%上回っています。普段の授業から、日常生活を想定とした課題を提示したり、他教科で数学的な考え方を使える場面を設定したりするなど授業改善に努めてきた結果だと考えております。

②では、「授業がよくわかる」と回答した児童が全国平均を上回りました。6年間を通して計算練習等の常時活動を行ったり、授業終末に振り返りをしたりする活動を継続的に行ってきた成果だと考えております。一方で、「わからない」「あまりわからない」と回答している児童が16.3%いることは、今後の課題です。

❶では、示された場面を把握し、複数の数量から必要な数量を選び、立式する設問の正答率は68.3%と、全国平均を下回っています。問われていることを解釈することで解決の見通しをもち、問題場面と図や式を関係付けて考察していけるよう継続して指導していきます。

【今後の取組】 児童質問紙調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」に対する児童の割合は80%であり、良い状況と考えています。このことが「国語や算数の授業がよくわかる」につながっていることがうかがえます。しかし、「本を読んだり借りたりするために学校図書館や地域の図書館に行く」と回答した児童が9.1%であること、「読書が好き」も全国平均を4.7%下回っていることから、読書に対する興味に課題が見られます。また、それは「国語が好き」が全国平均を下回る結果と関連すると考えます。今後は、読書の時間を確保したり、面白いと思う本を紹介し合う活動を行ったりして、読書に興味をもてるようにしていきます。児童の中には、本をよく読んでいる子も見られます。それは、学校司書の方を中心に、図書ボランティアの方々が読み聞かせを行ったり、おすすめ本を紹介したり、学校図書館の整備を行ったりして下さっているおかげと考えます。これらの活動を継続しながら、調べ学習だけでなく、読書を楽しむために図書館へ行く児童の割合が3ポイント向上することをめざします。

算数では、学び合いを通して、わからないことを自分が納得するまで聞いたり、問題場面と図や式の関連を説明したりすることで、引き続き「授業がわかる」と回答する児童の割合が全国平均を上回ることをめざします。

教育委員会から

宮崎小学校では、学び合いを通して問題解決できる子どもの育成をめざし、学習指導の改善に取り組んでおります。それにより「授業がわかる」と実感する児童の姿として表れているとらえております。また、児童集会など子どもたちが主体的に活動する取組に力を入れ、ふり返り活動を丁寧に行うことで、子どもたちに自己有用感が育まれていると考えます。

宮前区・教育担当